

みずくらいど

校長 加藤雅弘

言い伝えと石碑で 忘れない！

今までの卒業生、地域の方々、先生方のおかげで今の皿沼小があります。みなさんも皿沼小のよいところが続いていくように、校舎やルールを大切にしていきましょう。

6年

上記の言葉は周年行事の児童集会において、全校児童に向けた、代表委員からのメッセージです。詳細は『みずくらいど』24号を参照ください。あと数日で卒業してしまう6年生から、もう一度この言葉を下級生に直接言い伝えてほしいと考えました。それは3月10日の、東日本大震災の命を守る行動は、教訓の言い伝えによって実行されたことを朝会で取り上げたからです。また、加えて記念式典当日、記念写真を撮り終えた6年生が、誰からの指示もない中、自分たちの判断で、進んでパイプ椅子の片付けをしたことも是非、後輩に遺してほしいと考えました。そこで昨日のズーム朝会では、座談会形式で6年生の姿や思いが伝わるようにしました。これまでにない形式にすることで、聞き手に深く印象付けるとともに来年以降も継承されることを期待しました。

どちらの言動も、自ら考え、判断し行動する「主体的に取り組む態度」の現れた姿です。このような姿が、皿沼小の伝統として継承されるためには、「言い伝え」とともに、それが目に見える形にもなっているとさらに効果的です。地震や津波の場合、多くは「石碑」という形で残っています。東日本大震災を契機に、各地に埋もれていた石碑が掘り起こされ、目立つ所に再建されているのも、この効果が改めて評価されたからです。私も今に至って周年行事における6年生の言動を何かの形に残しておけばよかったと後悔しました。この通信に載せれば情報としては残せますが、児童の目に触れる訳ではありません。「今更、石碑なんて建てられないし…」と思いこみながら、中庭にある石碑を見に行くと、そこには「自立」という文字が彫り込まれています。着任してから何度となく目にしてはいましたが、日常の指導と関連付ける思考になっていませんでした。

「自立」の意味を広辞苑で調べると「他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること」と載っています。「主体的に取り組む態度」とほぼ同義です。開校を記念して建立された石碑に書かれた「自立」、これはおそらく当時、一番重視した教育理念と推測されますが、それが40年の時を経て、今年の6年生によって呼び起こされたとは思えないのです。

来年以降、この皿沼小をどのような学校にしていくか、我々教職員も真剣に考えていますが、子供たちにも、学校の一員として参画してほしいと考えています。教科の学習も家庭での学習も「なぜ、学ぶのか」を考えるとともに、生活面でも、「なぜ、早寝早起きが大切か」「なぜ、廊下は右側を歩くのか」「なぜ、挨拶は重要か」等、言われたからやるのではなく、その意味を考え、自分で判断し、行動できるようになってほしいと願い、今年度の『みずくらいど』を閉じさせていただきます。

ここまで、お目通しいただき、ありがとうございました。周年行事の年度を、このような形で終われることを大変うれしく思います。また、1年間の本校の教育へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

